

みんなで、SSピンポン！

SSピンポンは、生涯（Syougai）の『S』とスポーツ（Sports）の『S』を頭文字に、誰でも参加できる新たなバリアフリースポーツです。

2015年に三重で始められました。音の出るボールとラバーが貼ってないラケットを使い、卓球台とネットの隙間(4.2センチ)をくぐらせるように打ち合うスポーツです。

SSピンポンの特徴

- ダブルスは、全盲同士以外であれば、健常者同士でペアを組んで楽しめます。
- 審判員は、特別なライセンスは不要です。
- 一般卓球台にフレームを付けて楽しめます。（養生テープなどで取り付けます）



キュウト君



ラケナちゃん

みんなでSSピンポン！

エンジョイ SS ピンポンクラブ連絡先

村井 正治 （代表） 〒516-0008 伊勢市船江 2-29-62

Tel・Fax: : 0596-24-5501

伊藤 雅彦 （菟野町）

黒田 智子 （鈴鹿市）

ホームページ <http://sttmie.ssquin.com/>



< 用具 >

- ボールは、中に金属の粒が入った音の出る物（STT用ボール）、ラケットは、ラバーを貼らない木製の物を使用。
- 卓球台はSTTの専用台、または一般卓球台にフレームを付けて使用。
（フレームとは、高さ1.5センチ、幅1センチの物。エンドには全て、サイドはエンドから60センチの所まで取り付ける）

< ルール規定 >

- くちジャンケンでサーブ、レシーブ、エンド（コート）のいずれかを選択する。
- 審判が「プレイ」と言った後、サーバーが「行きます」、レシーバーが「はい」と言ってからサーブを打つ。
- サーバーの右側のコートから相手の右側のコートに入るように斜めに打つ。
- サーブは2本ずつで交代。
- ラリー中はコート全面を使用。
- ボールがエンドフレームに当たるか、またはエンドフレームに当たらずコート外に出た時点でどちらかのポイントとなる。

< サーブ時の注意点 >

- サーブ時のラケットとボールの距離は10センチ以上離す。
- ボールから手を離し、ラケットを静止させてから「いきます」と言う。

< ラケットの角度 >

- 打球時の角度は60度以上にする事。

< 打球音について >

- ラケットを持つ手やグリップで打っても、打球した音がわかればよい。
- テーブルをたたいたり、こすったりして、打球音を消さないよう注意する
- サーブしたボールがネットに触れると「ネット」（相手のポイント）
- サーブしたボールがコート外に出た場合「フォルト」（相手のポイント）
- サーブしたボールがレシーブエリアのセンターラインを外した場合「コースアウト」（相手のポイント）ただし、コースアウトのボールをリターンした場合、ゲームは続行。
- ボールがエンドフレームに当たった後、もう1度コート上のどこかに当たれば「セーフ」（打った選手のポイント）
- ボールがエンドフレームに当たった後、コート外に出てしまえば「アウト」（相手のポイント）
- ボールがエンドフレームに当たった後、テーブル上で選手の体に触れた場合は「コート内タッチ」（相手のポイント）
- ラケットに当たった後、コート外に出るか、または相手の守備エリアまで到達しない場合「リターンミス」（相手のポイント）
- 打球音がわからない場合は「打球音なし」（相手のポイント）

< 試合 >

- 通常11点5ゲームスマッチで、3ゲーム先取した選手が勝ちとなる。